

## 24号 すみれ会（札幌市）とやどかりの里（さいたま市）の当事者交流

### 1 レポート

交流を通して新たな力が湧く

#### すみれ会とやどかりの里

2002年（平成14）年3月18日から20日までの3日間の日程で、「すみれ会」に所属する5名が見学と交流のために「やどかりの里」を訪れた。今号掲載の座談会「相手を知って自分を知る」は、その交流の中で行われたものである。

すみれ会は、1970（昭和45）年に札幌市に発足した精神障害の患者会で、先駆的な当事者運動を続けてきた。権利擁護などのための政府や行政との交渉を活発に行い、積極的に講演に出向いて、病気に対する偏見をなくすために情報を発信している。他の障害者団体や市民活動団体とも交流が密で、さまざまな運動に関わってきた。現在、作業所を2か所運営しており、会員約250名、賛助会員約20名である。月1回発行の機関紙「すみれ会便り」の発行は800部を超える。

やどかりの里は、1970（昭和45年）に大宮市（現さいたま市）で活動を始めた民間団体である。精神障害を持つ人が地域で生活するための支援活動と、精神保健福祉の普及・推進を図る出版・研修・研究活動を両輪としてきた。現在、さいたま市内に点在する地域生活支援センター4か所、作業所6か所、グループホーム12か所、授産施設、援護寮、福祉工場各1か所に、当事者約200名、職員約50名、家族などが関わっている。会員400名弱の社団法人である。

それぞれに背景の異なる活動に参加している当事者同士の交流は、各々にとってどうだったのだろうか。